

2025年度 北海道大学大学院 文学院修士課程入学試験（後期）

試験区分	■ 一般入試 ■ 外国人留学生特別入試 ■ 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	専門試験（ 映像・現代文化論 ）
出題の意図	問題Ⅰ 映像・現代文化、日本近現代文学・思想に関する基本的な知識を問う。 問題Ⅱ 映像・現代文化、または日本近現代文学・思想に関する論文を読解し、自分の意見を論述することにより、専門分野に関する理解力と表現力を問う。 (A) 日本近代文学における歴史と文学の関係に関する問題 (B) 映画受容における多様な「映画の観客性 (spectatorship)」に関する問題

2025年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 映像・現代文化論 全8枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 8 枚，解答用紙 4 枚を配付する。

- ・ 解答は問題Ⅰと問題Ⅱについて、別々の解答用紙に記入すること。
 - ・ 問題Ⅱは、A・Bの中から一つを選んで解答すること。
-

問題Ⅰ

次の1～6の中から二つを選択し、選択番号を明記した上で解答しなさい（各 400 字程度）。

1. 日本のキリスト教受容における内村鑑三の位置づけについて説明しなさい。
2. 日本近代文学における女性作家の戦争協力について説明しなさい。
3. 中間小説と呼ばれる作品の一例を挙げて、その特質について説明しなさい。
4. ローラ・マルヴィ「視覚的快楽と物語映画」の意義と問題点について説明しなさい。
5. 「東映任侠映画」の特質について、具体的な作品を挙げて説明しなさい。
6. 映像生成 AI が映画にもたらし得るものについて説明しなさい。

問題Ⅱ A

次の文章は、吉岡亮『文明論と伝記の近代——明治前半期の歴史と文学』（文学通信、2024年）の一節である（設問の都合で、一部表記を改めた）。（1）この文章の内容を要約しなさい（250字程度）。（2）近代日本における歴史と文学の関係について、具体的な作家・作品を挙げて論じなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

＊ 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 吉岡亮『文明論と伝記の近代——明治前半期の歴史と文学』、文学通信、2024年、223-228頁。

問題Ⅱ B

次の文章は、エラ・ショハット／ロバート・スタム『支配と抵抗の映像文化——西洋中心主義と他者を考える』（早尾貴紀監訳、内田（蓼沼）理絵子・片岡恵美訳、法政大学出版局、2019年）の一節である（設問の都合上、省略した箇所がある）。（1）この文章を要約しなさい（250字程度）。（2）多様な「映画の観客性（spectatorship）」について、具体的な事例を挙げながら論じなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

＊ 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 エラ・ショハット／ロバート・スタム（早尾貴紀監訳、内田（蓼沼）理絵子・片岡恵美訳）『支配と抵抗の映像文化——西洋中心主義と他者を考える』、法政大学出版局、2019年、435-440頁。

